

お鋤山 植物たより (H28. 1. 17)

暖冬とはいえ、寒い毎日です。一か月前はタカノツメの黄葉が見事だったお鋤山も今はすべて落葉し、明るくなりました。ひんやりした冷気の中、その落葉を踏みしめて、奥三河の山並みを眺めながらの散歩は寒さも忘れさせます。

スズカカンアオイの暗紫色の花が咲いています。まだ鉄砲のような蕾のものもあります。地中に半分埋もれており、落ち葉を掻きわけないと分かりません。それにお世辞にもきれいな花とは言えません。

(H26.1.5 掲載) 東海地方特有の貴重な植物ですが、お鋤山では遊歩道沿いの各所に自生し、身近に見る事ができます。

シダは身近な植物です。冬でも枯れないものが多いので、散歩の時など目によくつきます。お鋤山では今のところ 11 種見つけています。

(H26.11.5 掲載 4種紹介) トラノオシダはトラの尾に見立てられ、ノキシノブは「軒シノブ」の意で軒によく生育するから、またイノモトソウは「井の許草」で、かつて石積みの井戸の近くに見られたからとのこと。名の由来も身近な所からきています。いずれも人家周辺の道端や石垣、樹木などにも生育しています。



中央広場に至る遊歩道



スズカ 花→
カンアオイ 蕾→



遊歩道の法面に生えているトラノオシダ



コナラに生えているノキシノブ



遊歩道沿いの湿地に生えているイノモトソウ